

マ — 十

弦
曲
之
譜

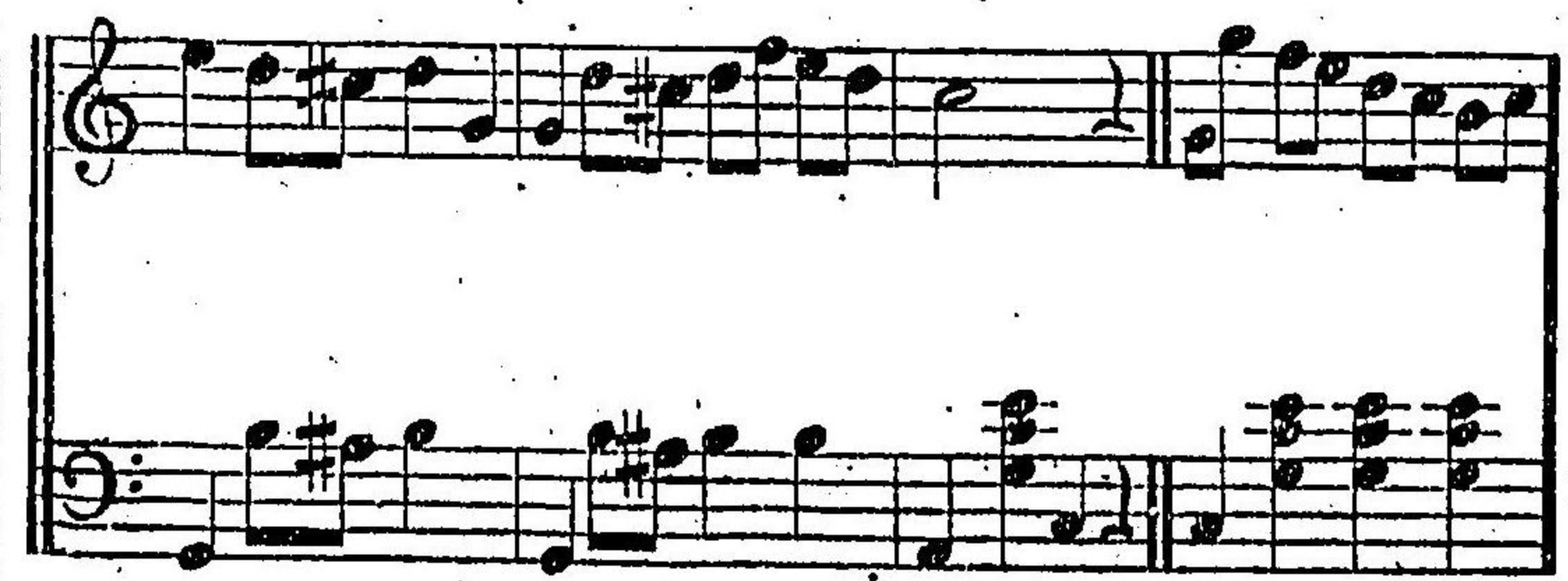
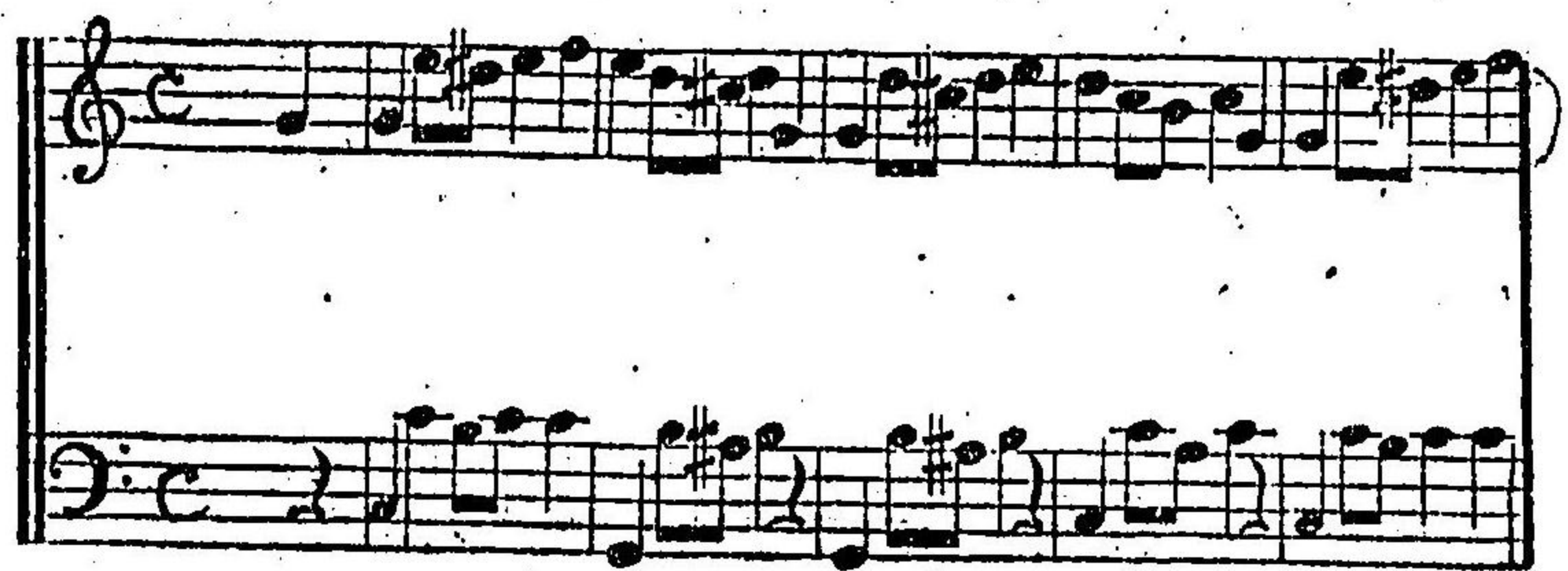


六十一



BASE BALL POLKA

弦
曲
之
譜



六十一

ADELADE POLKA MAZURKA

第三卷

The first system of music for 'ADELADE POLKA MAZURKA' consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp (F#). It contains a melodic line with eighth and sixteenth notes, including some slurs. The lower staff is in bass clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp. It features a bass line with chords and single notes.

第三卷

The second system of music for 'ADELADE POLKA MAZURKA' consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp. It continues the melodic line from the first system. The lower staff is in bass clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp, continuing the bass line with chords and single notes.

"LITTLE CUPID" WALTZ.

The first system of music for '"LITTLE CUPID" WALTZ' consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp. It contains a melodic line with eighth and sixteenth notes. The lower staff is in bass clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp, featuring a bass line with chords and single notes.

The second system of music for '"LITTLE CUPID" WALTZ' consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp. It continues the melodic line from the first system. The lower staff is in bass clef with a 3/4 time signature and a key signature of one sharp, continuing the bass line with chords and single notes.

六十二

日本俗曲之部

みつほ主人

第一數へ歌

一ツトセ

一夜明くれば賑ぎやかでく

おかざりたてたる松かさりく

二ツトセ

ふたはの松は色よふてく

三階松はかづさ山く

三ツトセ

皆さん小供衆はらく遊ひく

あないちこまさり羽根をつくく

數へ歌(早拍子)

一ツトセ



ひとつとやーひーとよあければにぎやか



で にぎやかでおかざりたてたりまつ

六十五



かさりーまつかさりー

四ツトセ 吉原女郎衆は手毬つくく

手毬の拍子はおもむろや

五ツトセ 何時もかはらぬ年男

お年も取らずによめをとる

六ツトセ 無理にたふした玉章を

雨風吹けどもまたとけぬ

七ツトセ 南無阿彌陀佛を手にとりて

御生ねがひのおちゞさまおはゞさま

八ツトセ やはら良い子たちよの子た

おちよで育たてた御子ぢやもの

九ツトセ こゝへ御ざれやあねさんよ

足袋やせきたてちやらくと

十ツトセ 年神様のおたなは

たいくから栗ほんたはら



梅ヶ枝

梅ヶ枝

7 7 7 6 4

うめがえの てうつばち

たいておかねがでーるなら

ばもしもおかねがでたならば

六十九

そのときみうけをそーれたのむ

第二梅ヶ枝

(一) 梅がえの手洗盤、たへてお金が出るならば、若しもお金が出たならばうの時身うけをうれたのむ。

(二) 國會の豫算案、政府と民黨の關が原、若し民黨が勝つたならば皆さんかけ聲それ頼む。

五十三次

五十三次



おえせにほんばしななつだち



はつのぼりーきやられつそろへて



アレハイサノサーコチヤたかーなはよあけて

五十三次



ちようちんけすーコチヤエーコチヤエー

第三 五十三次

江戸日本橋七つたち初上り行列揃へてアレハイサノサー
こちや高輪夜明けて灯提消すコチエー

五十三次

ギツナヨン節

ギツナヨン節



たかいやまかー



らーたにそこみれーばー ギツナヨン



ギツナヨン うりやなすびー



のーはなざかーり イヤサマカヤ

三



ドコドコドコ ヨイヤサー ギツナヨン
ツイツイツイ ツヨツヨツ

第四ギツナヨン節

(一) 大工頼んで飽てろつと

ギツナヨン ナヨン

ギツナヨン ナヨン

虚と眞の出る港

オヤマカ、ドッコイ、ドッコイ、ドッコイ、ヨロイヤサー

ギツナヨン、ナヨン、ギツナヨン、ナヨン

(二) 六里七里と隔てゝ居れど

ギツナヨン、ナヨン、ギツナヨン、ナヨン

同じ雲間の月を見る

オヤマカ、ドッコイ、ドッコイ、ドッコイ、ヨロイヤサー

ギツナヨン、ナヨン、ギツナヨン、ナヨン

金比羅船

金比羅船



こんひら ふねふね おいてにはかけて



しらしし まわれはしこくは



さんしうなかのこほりぞうさん こんひら



だいこんげん いつせんまわりて

七十五

金比羅船々、逐手に帆かけてシラシシ、

第五 金比羅船

廻れば四國は讚州中郡象頭山、

金比羅大權現一篇廻りて。

七十四

越後獅子(二)

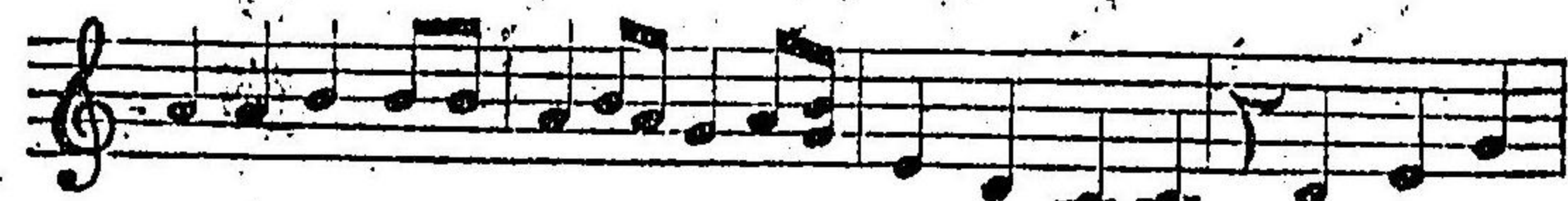
越後獅子



こどいーはーれ ねーまり



ねまらずまちあかすーーござればなしま



しよこまつの一かーげて まつのはの
ん



よにえこまやかに ひいてーーう



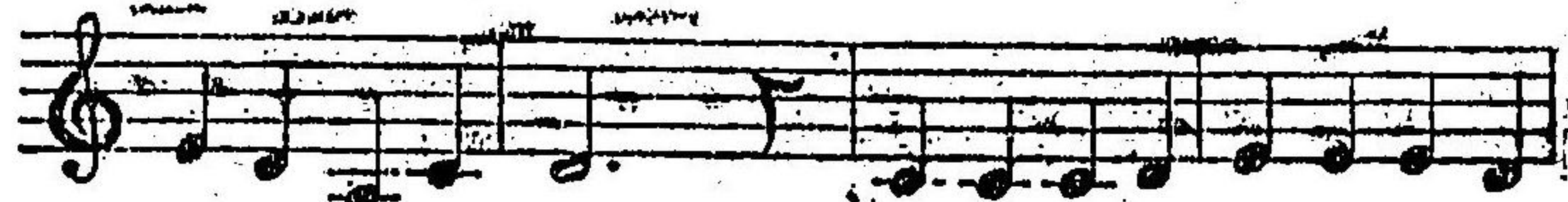
たふーやーししーのー



ーよーく

七十五

越後獅子(一)



ねーのがすがたを



はなとみてーーはーにー



さいーたーりーさかーせーたー



りそこなおけさーにいな

七十六

第七 越後獅子

己が姿を花と見て、庭に咲いたり咲かせたり、

そこなおけさに異言云はれ、寝まりねまらす待ち明す、

とざればなしましよ、こん小松の木蔭で、

松の葉のやうに、こんこまやかにし合。

第九 春雨

春雨に合しつほりぬるゝ鶯の、

羽風に匂ふ梅が香の合花に戯むれ、

とほらしや合小鳥でさへも一筋に

時定める氣は一つ合私しや鶯主は梅、

聴て身まゝ氣まゝに成るならば

サア鶯宿梅ぢやないかいな合

春 雨 (二)

春
雨

りてさへも ひどす じにねぐら

さだめるさ わひ - - と - - つ -

わたしや うぐひすぬし - はら - め

やが - - - てみまゝ、 きまゝになるならばさ -

八十一

- あら - しく - ばいじ や - な い

春 雨 (一)

はるさめ

に しつぼり

ぬるる - - うぐひすの - -

はな - - - にた わ - む - - -

八十二

れ - - しを - らし - - く こと

三 番 叟 (一)

三
番
叟



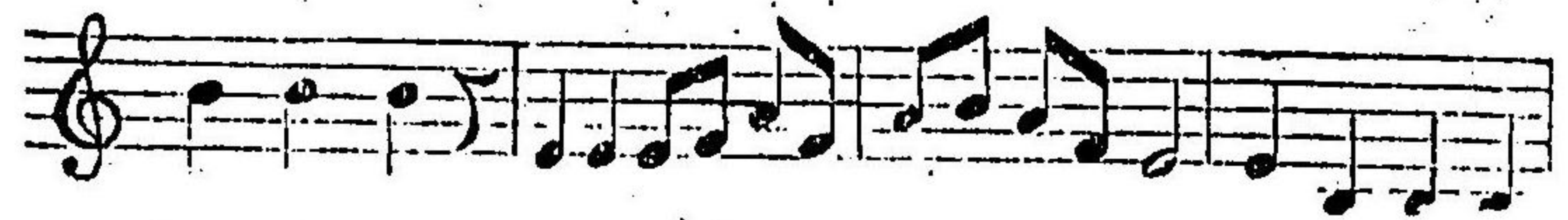
八
十
三



春 雨 (三)



か い な さ さ な で も よ い わ い
ん



な

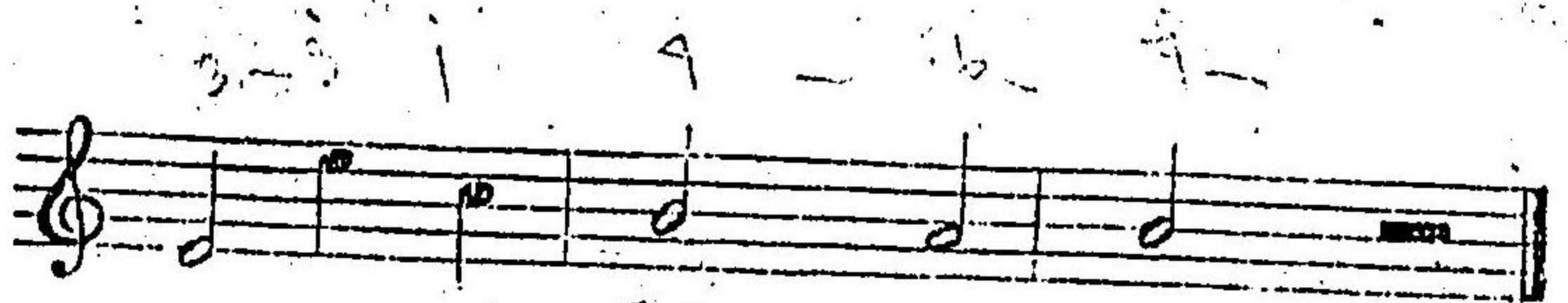
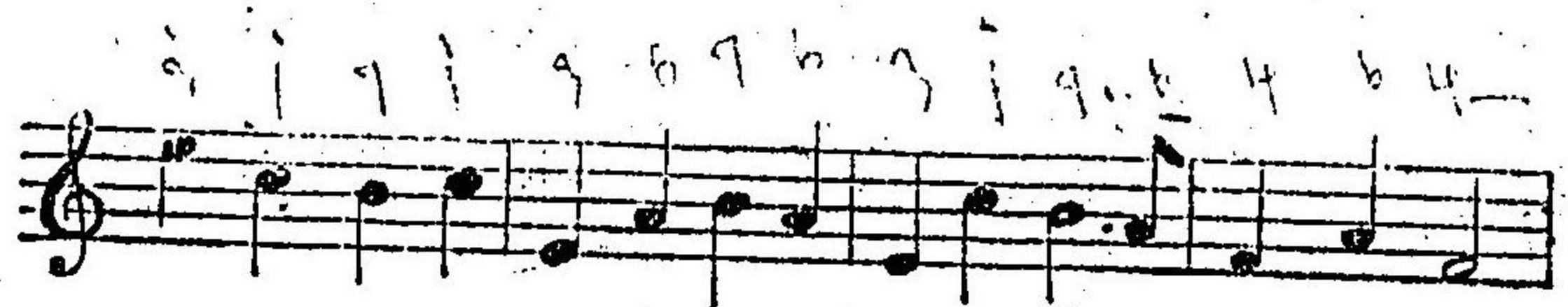
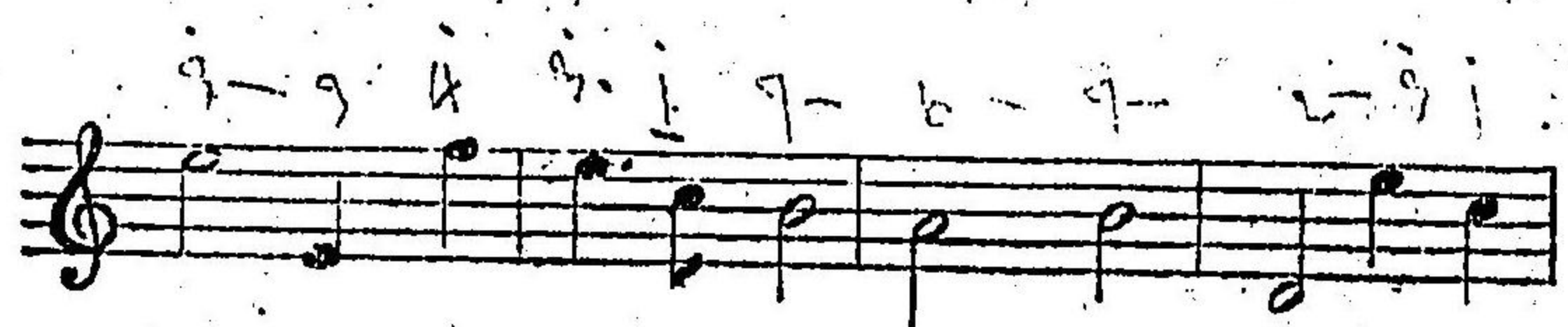


八
十
二

菅 搔 六 段

初段、二段、三段、

菅搔六段



八十五

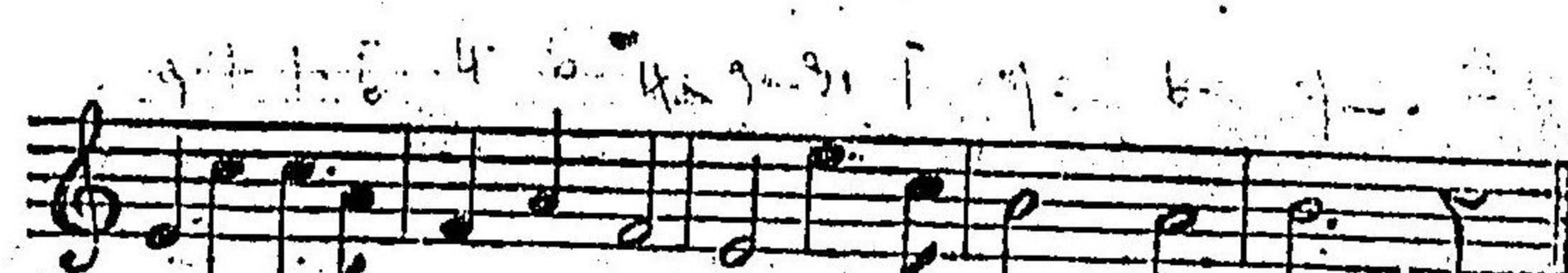
三 番 叟 (二)



八十四

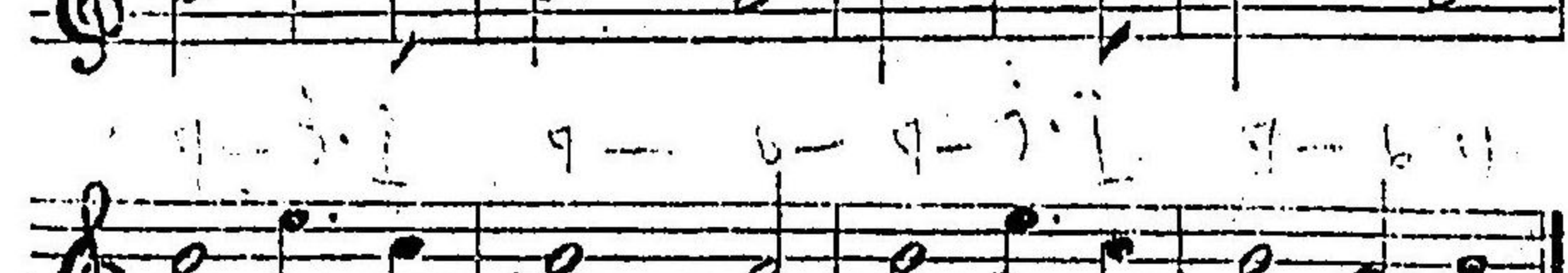
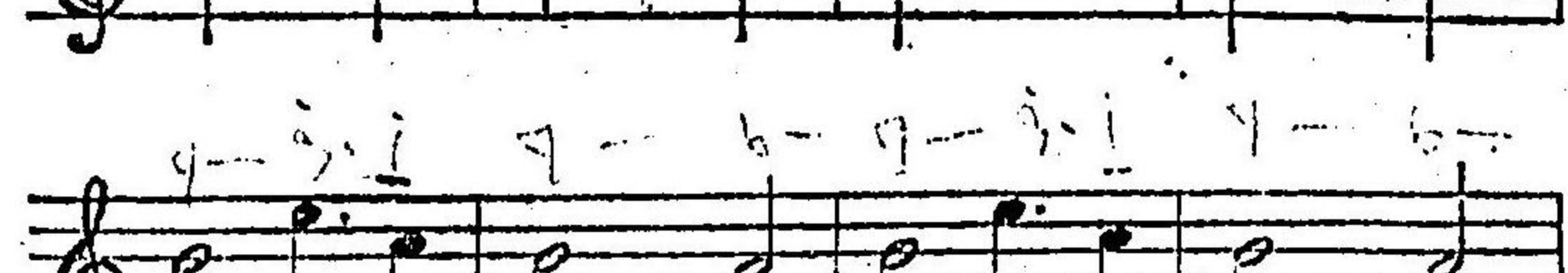
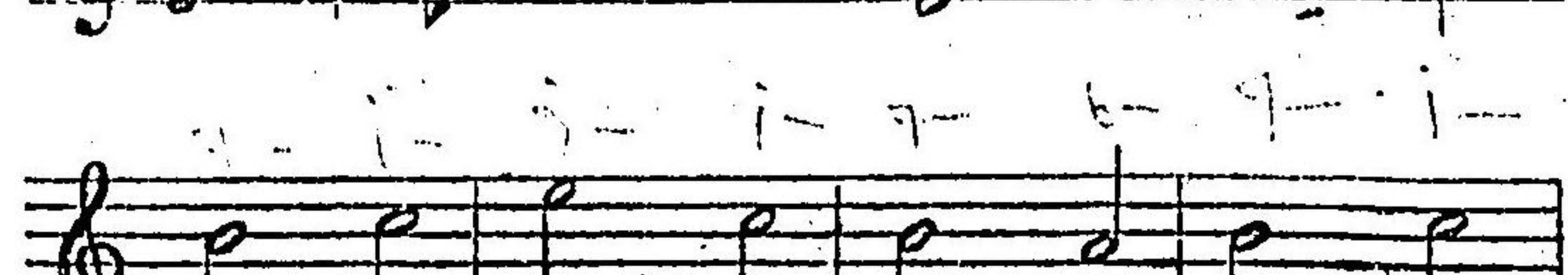
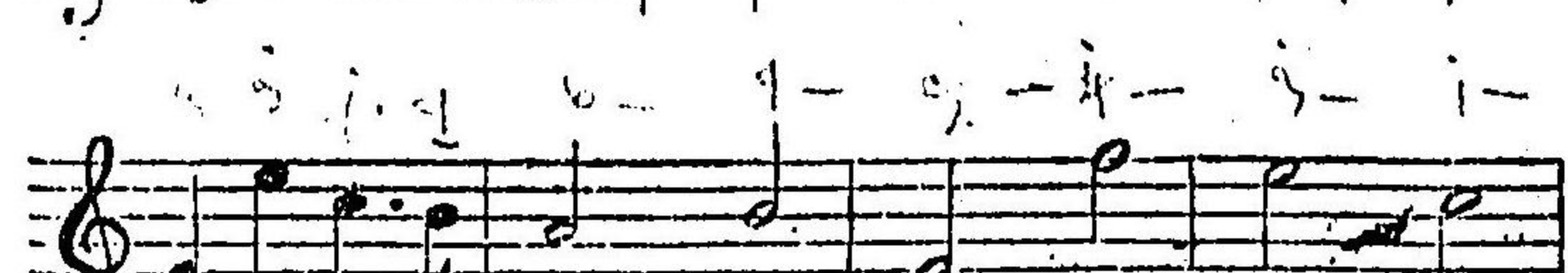
六 段

管 振 六 段



八 十 七

四 段、 五 段



八 十 六

紗 窓

算命曲

六 六 工 尺 上 合 尺 工 六 尺

九連環

四 仕 伏 四 仕 合 合 四 合

紗窓

工 工 六 工 尺 上 合 工 六 尺

四 仕 伏 四 仕 合 合 四 合

四 四 合 四 四 合 四 仕 四 合 工 合 四

八十九

四 仕 四 合 仕 仕 伏 四

仕 仕 伏 四 仕 合 合 四 合

算 命 曲

上 尺 工 六 工 工 六 工 上 尺 工 尺

尺 六 工 工 上 工 六 尺 四 伏 仕 四 合 合 四 合

四 仕 伏 仕 四 合 合 四 合
 九 連 環 (早調子)

上 上 工 尺 工 四 上 尺 工 上 四

合 合 四 仕 仕 合 四 四 仕 四 仕

四 仕 四 合 四 合 四 仕 合 工 工

八十八

尺 工 六 五 仕 五 六 工 尺 上 上 尺 上

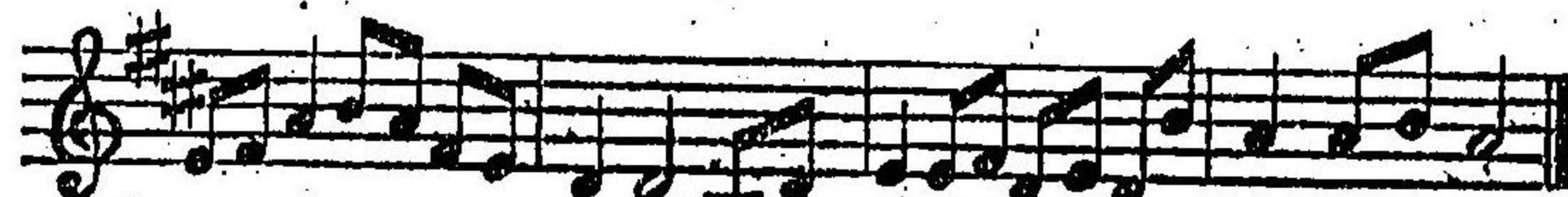
茉莉花

十二紅



尺尺工上尺上四合合四合 工上尺尺工 六五化五六

茉莉花



尺工六五六工尺 上上四上 尺尺工上尺上四合合四合

久聞歌

久聞歌



四上尺四化合合四合 尺四化尺



尺工上四合 尺尺工六工工尺上四化合



合合四化四化合合四合 合合四化四化合合四

九十一

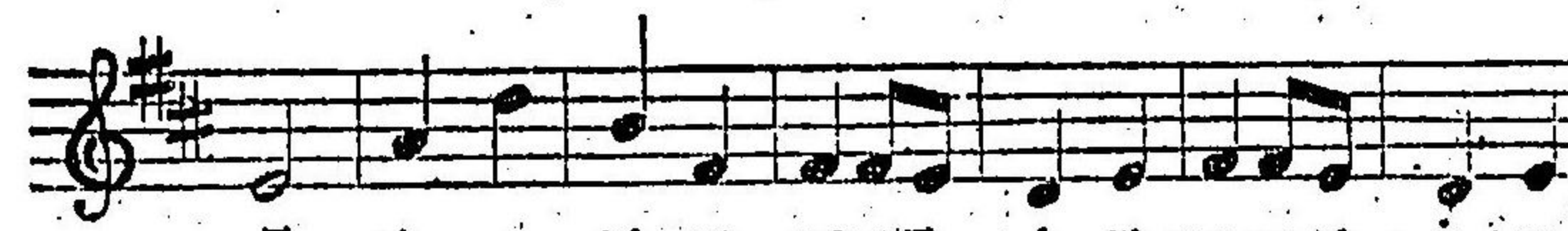


合 尺尺工上上合四尺工上四工合合四合

十二紅



五五六五化五六工六五五六 五五工六 工工尺上工



尺六化五工工工尺上尺工工尺上尺



工六工六五五工六 工工尺上工尺 六化五工



尺上尺上四 六化五工尺工尺上四四合四

茉莉花



工工合四化四合合四合合四工工合四化四合合四合



工合合工合四化四合合四工尺工六工尺上一上尺上



工上尺尺工 六五化五六尺工六五六工尺上上四上

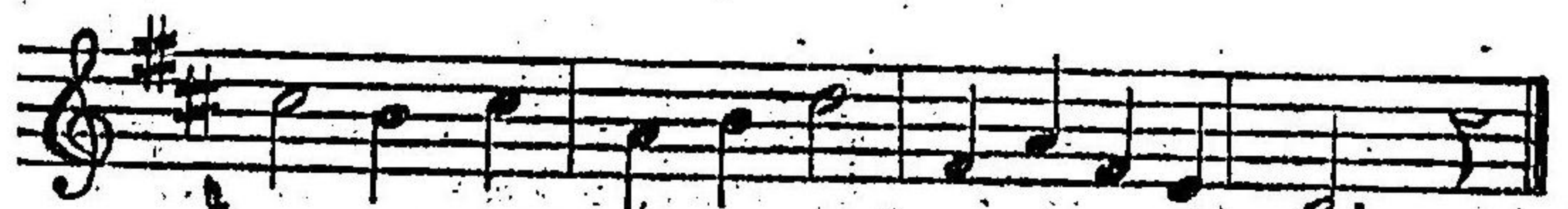
九十

廈門流水

廈門流水
將軍令



四 乙 乙 四 乙 合 合 四 合 合



乙 四 乙 合 四 仕 工 六 工 尺 上

將 軍 令



尺 尺 工 上 工 六 尺 尺 尺 工 上 尺 上 四 四 上 尺



尺 五 尺 上 五 六 工 六 五 尺 上 五 尺



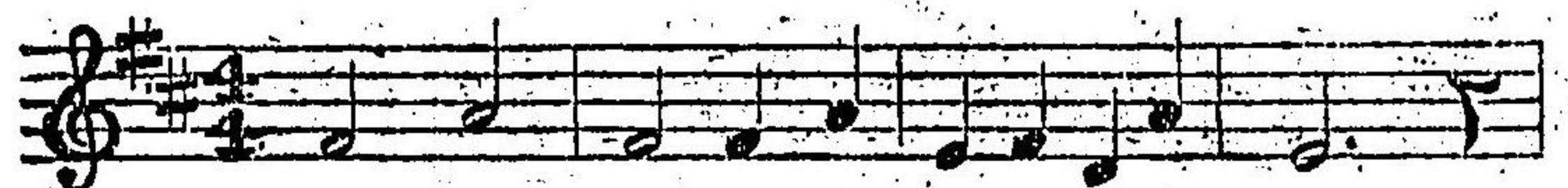
五 六 六 五 六 工 六 五 六 五



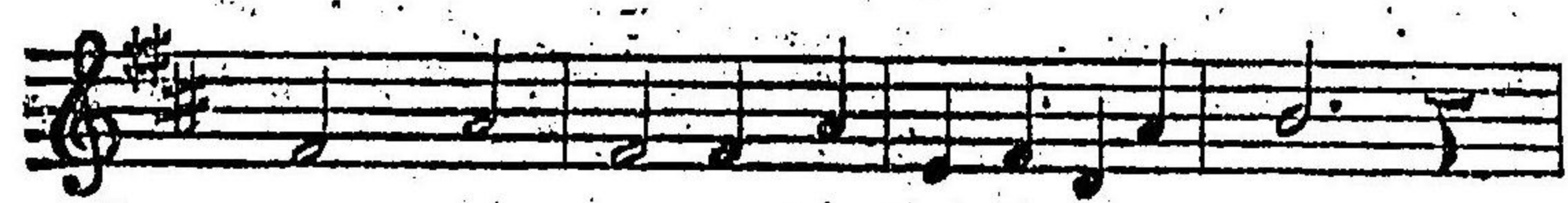
仕 仕 伏 仕 四 五 仕 五 六 凡 工

九十三

廈門流水



工 六 工 工 六 尺 工 上 合 尺



工 六 工 工 六 尺 工 上 合 四



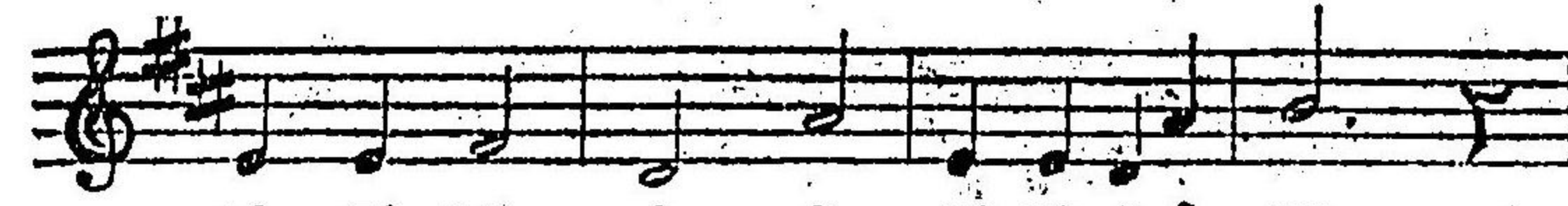
尺 工 上 合 尺 尺 工 上 合 四



合 合 四 合 四 合 上 合 合 合 四



合 四 合 上 合 工 尺 尺 上 合



尺 尺 工 上 合 尺 尺 上 合 四

九十二

漫板流水 (一)

漫板流水

伏伏任 合合四 仕四合四 仕仕
 四 仕合 工尺工合 伏伏任合 四合
 工尺工合 伏伏伏 任四合 伏任合仕
 合四伏任 仕伏合四 仕仕 伏伏任
 合合四 仕四合四 仕仕 仕四合
 仕仕 任仕 伏伏任任任伏任任
 伏任合合 四合任仕 四合四 仕仕

九十五

將軍令

尺 六 工尺六工尺 上合尺工 上
 上上尺工六 尺 尺工上合 尺
 工尺工六 工尺工六 尺工上合 尺
 尺尺工工尺工 六 六工六 五
 六 六六五 仕仕 五伏仕合
 四伏仕 四尺上 尺工六 尺

九十四

西皮調 (一)

西皮調



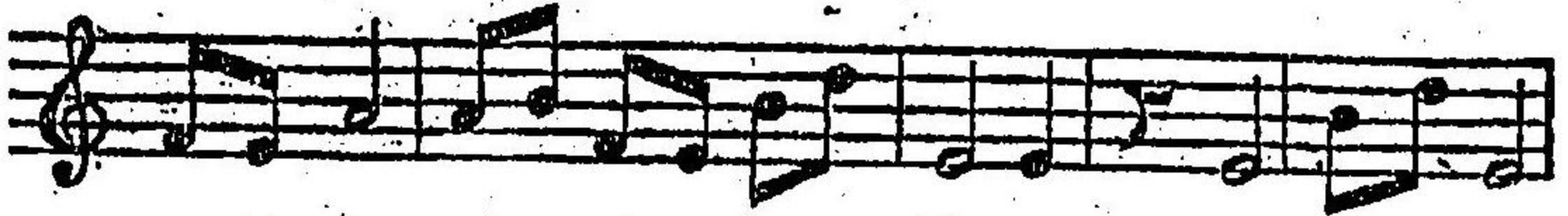
六六尺工 六化六化五六工六尺工六五六尺工六五五六



工尺上 尺尺工五六 工六工尺 上工六 工尺上六六



工六上 化四化 六工六工尺 上尺工上 四化合合四



工尺六 合四工尺四化 尺尺 尺四化尺

九十七



工合尺工尺上 四工合尺上四 工合四 五六工六尺 六工六

漫板流水 (二)



尺尺合 合工合四 仕四合四 仕仕



四仕合 工尺工合 尺上尺工 四合



尺工合仕 四合工尺 仕四合四 仕仕



伏伏仕 合工合四 仕四合四 仕仕



仕仕四合 仕仕 仕仕仕 伏合乙 四四四合四四



合四仕仕 四仕四合 工工 合四合 尺尺工



合四合 尺工合仕 四合工尺 仕四合 仕上

九十六

西皮調 (三)

西皮調



上尺工上 四化合四 工尺合 上上工 下六尺



工六工尺上上五六工五六工六 工尺上 工六工尺上六六工六化



化四化 化六工六 工尺上尺工上四化合合四工尺合 合四



乙乙五 五五六 五化五六工六 五

九十九

終

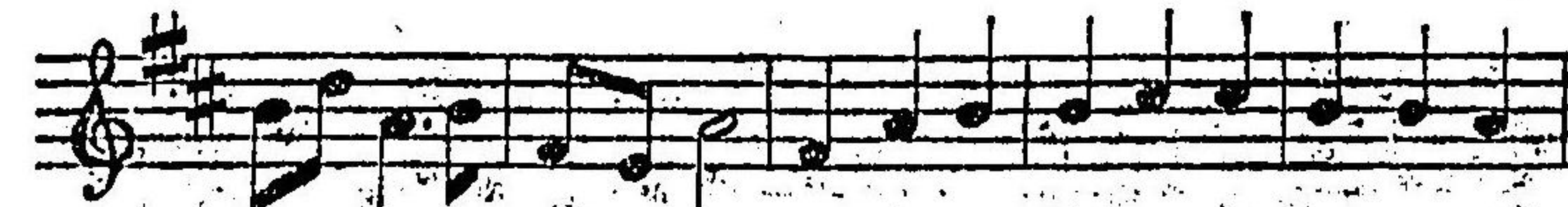
西皮調 (二)



尺工六五五六 工尺上 尺尺工五六 六五工六工尺上工 六



工尺上六六 工六化 化四化化 六工六工尺 上尺工化



四化合四 上尺合 工合四 四乙乙 五五六



六六 五五六工 五 六 五六工五六 工六工尺



上工六工尺上六六 工六化 化四化 六工六工尺

九十八

明治廿七年九月二十日印刷
明治廿七年九月廿四日發行

定價金拾錢

版權所有

著者 百足 登

發行者 大橋 新太郎

印刷者 橋 磯 吉

印刷所 三協 合資會社

日本橋區本町三丁目八番地
京橋區弓町二十三番地
京橋區弓町二十四番地

東京日本橋區本町三丁目

發兌元 博文館

從四位錦雞間祇候金井之恭先生題辭
百足 登君著

琴曲之葉

全一冊和製 正價拾錢郵稅四錢
琴曲の葉出づ、從來音樂の著書其數尠
なからずと雖も、獨り琴曲の書に至
りては、歌のみの本にして、未だ琴を
彈する手法あるを見ず、本書は著者が
苦辛して、筆曲の調子合せ方より、使
用法及琴曲の彈き方まで、一も漏らす
事なく一見以て初學者にも誰にも、彈
琴し得らる、様説明したれば、師に就
くの必要な、獨稽古の書なり、編中に
は組歌、六段、八千代獅子、越後獅子
を始め、數へ歌、黒髮等數十曲ありて
古來唯一の珍書なり

百足 登君著

三尺八之葉

全一冊和裝 正價拾錢郵稅四錢
本書は尺八の吹方より音の長短及拍子
等より懸るに説明を下し誰人にて本
書を開けば數日ならずして自由自在に
吹き得べき世間絶無の珍書なり又書中
には數へ歌、大祭祝日唱歌、春雨、こ
すの戸、夕ぐれ、つるの聲、くろがみ、
あしかり、六段、管擡六段、越後獅子、
八千代獅子、大津繪、今様、詩、九連
環、漫板流水、西皮調等其外數十曲あ
り

21/2/34

百足 登君著

再版 明清樂之葉

全一冊和裝 正價拾錢郵稅四錢

近來明清樂非常に流行し、都鄙の論なく月琴清笛胡琴等の音調を聞く、然りと雖も始終教師に就かざれば研究習得するを得ざるは大に憂ふべきの一端なり百足登君之に着眼せられ教師に就かざるも明清樂の樂器何れにても研究獨習し得らる、様反覆丁寧に説き示し本書を座右に置けば明清樂の教師に接するより便なり殊に圖解の如きは尤も鮮明詳細にして曲は明清樂の秘曲に至るまで百有餘曲又邦俗樂をも附記したり古今絶無の獨習書と云ふべきなり

百足 登君著

横笛之葉

全一冊和裝 正價拾錢郵稅四錢

横笛は我邦固有の樂器にして、上は宮廷より下は民間に至るまで、雅俗諸般の音樂に用ゐるはなく、殊に三絃と合奏するに横笛なければ音樂曲を成さざる程なり、本書は雅樂の越天樂太平樂を始め、神樂の囃子民間の數へ唄、秋の七草、勸進帳、越後獅子等に至るまで、細大漏らさず最も丁寧詳細に説き明かしたる者なれば世間絶無の獨習書なり

百足 登君著

胡弓之葉

全一冊和裝 正價拾錢郵稅四錢

音樂第五編として出てたるは胡弓の葉なり元來胡弓及三味線等には一定の音符なくまた感所を示すとなし是れ著者が多年その一大點なるを嘆せられし所なりしか今や此音符感所を發明せられ此書を公にせられぬ一たび巻を開かば直に胡弓の獨習をなし得べく從來胡弓を習へる者は之に因て大に其蘊奥に至ることを得ん書中に流行曲、俗曲、本曲等を音符もて丁寧に記載せると他の諸篇に同じ

百足 登君著

洋樂之葉

全一冊和裝 正價拾錢郵稅四錢

洋樂の我邦に入りてより都鄙の論なく流行盛にして大中小の諸學校皆之を用ゐざるはなし隨て之に關する著書も種々あれども概ね一方に偏して大跡に通する者を見ず本書は風琴、パイオリン、手風琴等の彈奏法より移調法、音符、記載法、洋樂々理、教授法に至る迄を説明して獨習に便ならしめ又日本俗曲中の高雅なるもの、清樂中の妙曲、その他諸種の歌曲百餘種の曲譜の音符を挿入し尤も明瞭に説明せり

石橋思案外史著 小林清親氏書

滑稽 小兒四十八癖

全一冊和装 正價拾錢郵税四錢

世に癖てふものはどをかしきはあらず、殊に小兒の癖に至りては最もをかし、我が國滑稽の改良を以て自任する思案外史茲に見る處あり。得意の筆を揮つて、巧に小兒專賣の癖を活寫す、奇景百出、妙想湧くが如く、人をして送迎にいとま無からしむ、世にこれ程をかしき書はあらざるべし、幼年諸君早く一本を讀みて、をかしき程にかしかり給へ。

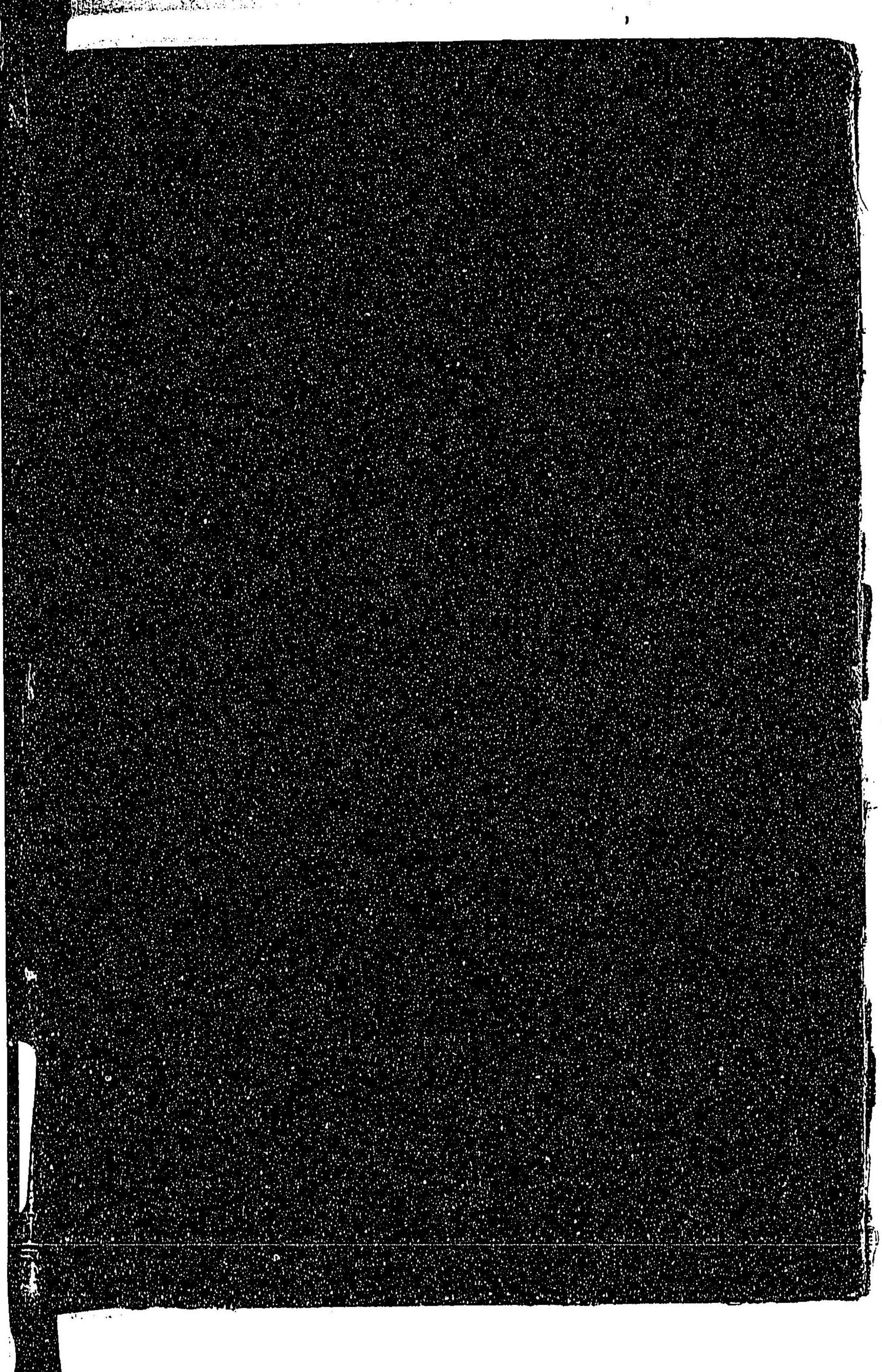
松居松葉君著 密書入

西洋 滑稽 落語

全一冊和装 正價拾錢郵税四錢

かけり合ひまして、かはりばひのあるや否やは、今こゝにいふを須ぬす、奇想は天外より落ち、妙思地下に湧く、來年のとならぬと鬼も笑ふべく詞は上品なれど佛も相好を崩すべし、かつて讀賣新聞に劇場の逸話をのせて、大喝采を博したる松葉子、今また少年諸君のために這の好笑話を纂む、讀まん人まつ頭の外つれ、臍の落ちぬ要心してかゝるべし。

69
51



69

51

072653-000-9

69-51

胡弓之槩，洋樂之槩

百足 登/著

M27

CEH-0166



